

「研修会等名称」

2022年度 SD 共同研修プログラム

「頭の中をすっきり視覚化！マインドマップ活用術」

場所：キャンパスプラザ京都

期間：2022年7月27日

1. 研修の内容

研修の目的は「マインドマップ」の書き方と使い方の基礎を学び、仕事に生かせるようにすることである。具体的には「書き方を身につける」「整理された話し方ができる」「計画を立てられる」「文章の内容をまとめられる」の4点である。

「マインドマップ」とは Tony Buzan により開発された「脳の自然な働きを生かすための考え方の整理方法」である。その特徴、作成手順、効果、活用方法について事例をもとに説明がされ、その後参加者が実際に作成しその内容について話し合いを行い振り返りが行われた。

「マインドマップ」の3つの特徴は連想を視覚化し、絵のように脳に映像を残し、全体を見渡しやすくすることにある。ホールパート法を使い、全体像を述べ、次に部分の詳細を述べ、最後に再度全体像を述べることでわかりやすく整理された話し方ができるという説明があり、実際にタスクを行った。それぞれがマインドマップ作成からわかりやすく説明するという活動を行い、感想を述べ合った。

そのほか、計画を立てる方法、文章をまとめる方法についても説明と実践があり、それぞれ事例の紹介も行われた。

最後にグループ別に研修成果を話し合ったり、それぞれが作成したマインドマップを机上に置き、各自が他の参加者の作成したのを見て回るという活動も行われた。

2. 研修の成果

「マインドマップ」については書籍を読み、授業で実践もしていたので、既知の内容も多かったが、従来疑問に思っていた「ミニマインドマップ」と「フルマインドマップ」の使い分けについて本研修で明らかになったことが大きな収穫であった。

「ミニマインドマップ」は考えがまとまらない時に使用し、まとまってきたら「フルマインドマップ」に書き直す、などその時の状況に応じて使い分けをするということがよくわかった。

また、書いて終わりではなく、その後書いたものを俯瞰することが重要であり、それによって重点化することがわかり、書く順番を決めていくという段取りも再確認することができた。

参加者の中には初めてマインドマップに触れる方もおり、基礎的なことが中心であったため、「自己紹介」や「計画を立てる」ことなどがタスクとして取り上げられた。「レポートを書く際の活用方法」については軽く触れる程度であったことに多少物足りない印象を持ったが、「自分自身の考えを見つめる」「書きたいことを整理する」という点で改めてマインドマップの活用法を見直したいと思うことができた。

京都教育大学、京都工芸大学、京都橘大学の方々と同じテーブルになり、意見交換ができたことも貴重な体験であった。

3. 授業への研修成果の反映状況

「マインドマップ」の活動を短い時間ではなく、もっと丁寧に時間をかけてやる必要があると思えた。学生たちの中には中学や高校時代に体験しているものもいたため、今までは体験していることを前提に活動を進めていたように思う。しかし、自分の考えを見つめ、整理することに時間がかかる学生がいるということを念頭に授業を進める必要があると考える。自分自身がワークショップに活動してみて、参加者の気持ちになることができたことも大きな収穫であった。

学部長	学習・教育支援 センター委員長	学習・教育支援 センター委員会	名古屋教務課長	係
				